

清潔なる車中

文藝春秋

世田有一田流才

しかし、北京はより新しく設計されたヨーロッパの首都の部分にくらべて、そのような恐ろしい非人間的性格を少しも持っていない。都市の魂にとつて必要な小路をも、北京は缺いてはいない。

シットウエル

内山完造

姿を消した阿片

戦後の中國は、と言へば、今までその地に旅した人々（例へば帆足氏等）が口を揃へて言つてゐるやうに、全く變つてゐるの一言に盡きよう。想像の外である。日本人は革命とはどんなものか、本當に知らないで、行つてみて成程これが革命だな、とつくづく感ぜざるを得ない。それ程、以前の中國と現在の中國は凡ての點で變貌してゐるのである。

飛行機で私達一行は香港に飛ぶ。

香港と言へば、その將來が、以前私が上海にゐた時、（これから發展するのは香港だ。全中國の租界地の本山が香港になるだらう）と語り合つてゐたが、實際その通りだつたと直ぐに感じられた。

九龍で飛行機を降りると、九龍の街の賑かさに驚嘆させられる。以前と比べると、とんでもない繁榮ぶりである。

それは九龍の街ばかりでない。夜九龍から眺められる香港の様も同様だ。螢の籠と言はれた夜景は、もう螢どころでない。全くドクドクしい程になつてゐる。晝間香港へわたつてみると、狭い通りの雜沓ぶりに、成程となづかされるが、……かつての上海の租界地的反映が全部香港に移つてしまつた、と言つたらよからう。

香港から廣東まで、廣九鐵路を利用する。

途中深川と言ふ川があり、橋が兩岸を結んでゐる。これが境界線で、橋の南側が英領、北側が中國領である。橋を一步踏みこむと中國領である。九龍から汽車で一時間餘の所で

あつた。

この境界線を越えるに一苦勞、手續きは簡単なのだが、ここで汽車が停止して、乗客は夫々荷物をかついで降ろされる。中國へ入るのに英領での荷物検査が嚴重で、それがやつとすんで、集合すると橋畔にゐる中國人案内者が引率して、やつと橋を渡り始めると言ふ具合である。

途中で旅行者の交換が行はれる。つまり、中國から英領に入る旅行者と、英領から中國へ入る旅行者が、夫々の中國人案内者に手交されるわけである。注意していいのは、そのどちら側の案内者も中國人であると言ふこと。この事實は面白いと思ふ。

深圳から別に廣東東行の汽車が出て、ここで荷物を中國に移して、始めて中國入りと言ふ

次第である。

この汽車で廣東まで約四時間。

まづ汽車に乗つて最初に氣付くことは、何と言つても綺麗すぎると言ふことである。三等(硬席車と言ふ。一・二等は軟席車)でも、床板が木目のはつきり見える程、よく磨かれてある。ガラス窓は透きとほり、紙くづ一片落ちてゐない。とても日本の汽車などは、

いや、一層驚くことは、昔は三等の中ではもう煙草の煙りでモウモウとしてゐた筈だったのに、今は煙りもない。煙草を吸つてゐる人が殆んど見られないのだ。又この線には婦人子供専用車が四輛あり、昔なら假にかうしたものを設けても亂暴な中國人が押し入つて、何の役にもたゝなかつたが、今はキチンと守られてゐる。勿論この車内では煙草の煙りなど考へられない。

ところが列車内にはちやんと賣子がゐて、煙草を賣つてゐる。あれでは商賣になるまいのに。

何故車内がその様に綺麗に整頓されてゐるのか、注意してみてみると、それは一面掃除夫が非常に多い爲と分つた。塵をとるものは塵をとる、床を拭くものは床を拭く。それが

のべつ幕なしでは、客の方でも紙くづ一つ抛れない。それが習慣となる迄、能動的に働きかけたのが掃除夫の方で、全く大した努力と感ぜざるを得ない。

それから煙草を餘り吸はないと言ふのは、後に分つた事だが、節約運動が徹底してゐる爲であつた。現代中國は一方で節約運動、一方で増産運動と、車の兩輪の如く動いてゐる。數字統計好きの日本人とは少し違ふ様だ。

煙草の話でもう一言付け加へて置くが、今中國人で阿片を吸つてゐるものは、その影も見られぬ。と、もう一つ、中國青年でさへも多くは煙草を吸つてゐないと言ふ事實だ。

現代中國を特色づけてゐるもの一つとして、車内にある服務臺の話をする——一體中國では非常に服務すると言ふことが徹底してゐる。それも一人が一人に服務すると言ふのでなく、全人類社會をよくする——個人と言ふよりグループに服務する。その爲學校に於ても、學習としてはコミニズムを教へてゐるが、實踐としては服務すると言ふことを徹底させてゐるやうだ。これは修身の如く頭の中のものでない。さて、車内服務臺のことだが、ここで貸本屋が開かれてゐる。サーピスとして貸してゐるので勿論無料で、汽車のキップと交換に貸出してゐる。實にうまい

事を考へ出したものだ。そこで働いてゐる娘さんは、暇だと丹念に本を修理し、公共物と思へぬ程本は美しい。

煙草の問題にせよ、一つには節約の上からであるが、他の一つには服務の考へ方から他の人に迷惑になるからと吸はないものらしい。

丸腰のお巡りさん

話は飛ぶが、他の特色として北京の街の警察官(公安と言ふ)の話をしよう。中國の巡

本は、最も面白い事なのだが、全部丸腰で、拳銃はおろか棒きれ一つ持つてゐない。持つてゐるものと言へば、メガフォン一つ。それは治安がまもられてゐる證據で、私が行つてゐた間中、中國人達のワラワラ（喧嘩騒動）一つみたことがなかつた。

交通巡査が假に交通違反者を見つけると、持つてゐたメガフォンで、「同志、^{トビ}と呼び止め、今、君がした事は、君自身いと思ふか悪かつたと思ふか」と注意するだけで、違反者に悪いと分らせたら、直ぐにその場で許してやる、と言つた風である。

巡査は怒るところか、唯過つた人に理解させてやるだけの仕事をやる。

現代中國人の考へ方は、凡ては解決出来る。そして解決するためには先づ互ひに理解せねばならぬ」と言ふ傾向にあり、本當に理解出来れば、どんな困難な問題でも解決出来る」と確信してゐるらしい。

もう一つ交通巡査の話で面白いことは、生憎巡査が違反者と話をしてゐたり、用があつたりして定位置をはずすと、側にゐた人が、それは車曳きを始め、十二、三の子供に至るまで、巡査の代りになつて交通整理をする、と言ふ事である。これは又實にヌムースに、全くよく訓練したものと思ふ。結局はそれも服

務の一つであるわけだが、子供まきが代りを務めると言ふ所に現代中國の特色があらう。

兎も角もさうした具合に複雑な社會が、キナンと整理されてゐる譯だが、それが仕事の面にまで現はれてくると——、今度の歸還問題に於て、中國赤十字社は、日本居留民の自由なる歸國に協力する様、依頼されてゐるが、何人日本人があるか、行方不明の人があるか等の問題については、赤十字社の關係する所でない」と返答してくる次第である。更に——「一九四九年十月一日以後の日本人にして行方不明と云ふものもない。十月一日以後のことは現政府には分るが、それ以前の問題は將立有政權のことで、全然分らない」と云つてゐる程で、とりつきやうもない。なれぬ者にほちよつと困ることもあらう。又私が、「このまゝ中國に残つてみたい」などと洩らすと、必ず「今か、つてゐる問題を解決してから……」と二言目には言ふ。時間を浪費せず、最大限に服務するのを第一としてゐるのである。

これ等の會話の通譯は、皆若い娘さんで、北京大學の日本語科（約七〇名あると言ふ）の學生さんである。北京大學には別に日本人教師はゐないのだが、皆感心する程日本語が巧みである。そしていはば教科實習として通

譯をつとめるのださうだ。勿論後見人として機能してゐる人がついてゐるが、……どんなに複雑な問題でも凡て柔らかに話が進んでゆく、と言ふのは、恐らく通譯が娘さんであることに一部起因してゐるのではなからうか。

北京の街に蟻、蚊をほじめ替へ人があんなになつたと言はれてゐるが、實際その通りで、かつての苦力、淫賣、乞食、泥棒等本當に見られなくなつた。一體何處へ行つてしまつたか。「革命の時皆殺してしまつたのですか」ときいたが、大笑ひされた。彼等は凡て仕事に従事してゐると言ふ。

公表はされてゐないのだが、中國總人口はかつてより一億餘増加して、今は五億五千萬から七千萬人近くもゐると言ふ。これは結局革命の結果——農地改革の結果、戰爭に動員されるのを恐れ隠れてゐたものを始め、乞食、泥棒にいたるまで一齊に國勢調査を受けた爲と見られる。何しろ老若男女に拘らず一人に對して二〇〇坪の土地が貰へると言ふのだから、調査を受けたのは當然だらう。と考へてくれば、この一億の中半分の五千萬しか働けないとしても、その勞動者は何んと大したものではないか。勿論種々缺陷があるとは言へ、その根本だけを考へる時に——。